

留学報告書 II (2024 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾湘南藤沢中等部 2 年
留学先校名	Fay School
留学期間	2024 年 9 月から 2025 年 6 月まで

留学を振り返って

留学に行く前に期待していたこと、心配していたことはありましたか。実際に行ってどのように変わりましたか。

留学に行く前、学校に特に期待していたことは日本とは全く異なる授業スタイルを体験すること、十人十色のバックグラウンドを持つ生徒や先生と交流することでした。その二つが学業面はもちろん、私自身の人間性や価値観の成長にもつながればと考えていました。そして Fay で生活はまさに期待通りでした。日本とは違う生徒の意見、発言を中心に進んでいく授業は私の各教科での学習を深めてくれただけでなく、自分の意見をクラスに発信する能力も高めてくれました。また、ディベート能力やパブリックスピーキングなどの能力も一年の授業を通して身につけることができました。さらに、アメリカでの日常生活で期待以上に学びを多く得ることができました。長期休み期間中に体験したアメリカ伝統のホリデーの過ごし方やアメリカ大統領選挙の仕組みと選挙中のアメリカの様子など、現地にいたからこそその発見を一年間絶えることなく見つけ、体感し、学びとして蓄えることができました。

心配していたことは小さなことも含めると数えきれないほどありました。全く新しい生活への高揚感と同じくらい、不安も大きかったです。なかでも一番心配だったのは友達や人間関係です。ルームメイトがいる生活は初めてだったのでどうなるのか全く想像もつかず、どんな子がルームメイトになるのか、果たして私は寮生活に適應できるのかなどとても不安でした。寮生活以外でも私の英語で友達をたくさん作ることはできるのか、先生に相談したり気軽に話すことはできるのか、など多くの心配を抱えていました。しかし、いざ Fay で生活を始めてみるとすぐに心配事は解消されていきました。寮生活はドームパーレンツと呼ばれる寮住み込みの先生やプロクターという 9 年生の生徒が一年間を通して支えてくれました。最初の寮での一、二週間は慣れないことも多かったのですが相談できる相手がいることはすごく心強かったです。ルームメイトとの暮らしも始まって一週間は慣れないことも、互いにぎこちなく感じる瞬間もありました。しかし気付けばそれぞれのルーティーンが綺麗に共存する生活が出来上がり、ぎこちなさも消えていました。部屋の事で私一人が抱え込む悩みができることはほぼ無く、ルームメイト三人共通の悩みを互いに支え合って解決していく寮生活でした。また、友達もすぐにできる環境だと感じました。各教科それぞれクラスメートが違うので色々な生徒と会話する機会があり、気が合う友達を見つけることができました。授業外でもスポーツやクラブ、そしてランチやディナーテーブルを通して同学年の生徒だけでなく一個上や一個下の生徒と喋る機会もたくさんあるので問題なく友達をたくさん作ることができました。先生方もとても親切でこちらから話しかける前に悩んでいることはないか、最近の調子はどうかなど必ずチェックインして下さったので何か相談したいことがある時には気兼ねなくいつでも頼ることができる、Fay はひとつの大きな家族のような環境でした。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

- クラブ活動
Fay では学期別に、一年計三つの異なるクラブに参加することができます。私は秋には Library Board Game に、冬には Crochet and Knitting、春には Cross Stitching クラブに所属していました。クラブ活動は私にとって新しいことに挑戦し、趣味の幅を広げることのできる貴重な時間でした。Fay のクラブは週に一度行われ、毎学期十以上の選択肢の中から選ぶことができました。今回私が選んだ三つのクラブはどれも未経験で、特に手先が不器用な私にとって Crochet and Knitting は習得するのに苦労しました。それでも仲間とクラブで笑い合ったり、新たな趣味を開拓し、習得することはとても楽しく、充実した時間でした。
- スポーツ
Fay はスポーツにも重点をおいている学校でした。選手のレベルごとにチームがあり、自分にあったレ

ベルでそれぞれが全力を発揮することができます。また他校との試合が週に2回、多い週で3回あることもチーム全体の団結力の向上や練習のモチベーションに繋がっていました。

日本ではひとつの部活、あるいは競技に限定して取り組むことが一般的ですが、Fayではクラブと同様に学期別にスポーツを選び、取り組むというシステムでした。私が実際に経験してみて感じたこの仕組みの魅力的な点は自分が得意なスポーツを見つけることができるだけで無く、スポーツを通じて、生徒の能力を最大限に育てることのできる場所だと感じました。ひとつのチームで同じ種目を続けると、必然的に限られた人が指揮をとるようになり、他の生徒はリーダーシップを育てる機会を失ってしまいがちです。その点、Fayではスポーツの中で誰もがリーダーになれるチャンスを与えられるので「自分がどういうリーダーになれるのか」を知ることができました。また、私には新しいスポーツに挑戦する学期と、自分の得意とするスポーツでさらに腕を磨く学期があったので、教える側と教わる側、両方に一年間で回ることができました。教わる側も経験したことによって何かを人に教えるという能力がより成長したと感じています。

● ボランティア

Fayではボランティアをする機会も豊富で、私は一年を通して合計4つのボランティア活動を行いました。Thanksgiving前のFood Driveのお手伝いでは生徒は近所の教会に出向き、集められた貧しい人々のために寄付された食品を仕分けるお手伝いを行いました。また、Christmas前にはPresent Gift Driveに参加し恵まれない環境で暮らす子供達へのクリスマスプレゼントをみんなで用意しました。最後の2つのボランティアはSpecial Olympicと呼ばれる障害者の方のためのスポーツプログラムのお手伝いでした。

Young Athlete Special Olympicのお手伝いは障害を抱えた小さい子供達にみんなでスポーツをするチャンスを与え、スポーツの楽しさを伝えることが目標でした。そのために一緒に遊んだりスポーツのルールを教え、一緒に実践していくことが主なボランティア内容でした。また、8年生のボランティア活動の機会として大人向けのバスケットボールトーナメントもFay主催で2月に行われ、多くの8年生が参加しました。大会に向けての会場準備、選手の応援、表彰、スコア管理などが具体的な内容でした。この二つのSpecial Olympicのボランティアは障害者の方々とのコミュニケーションの取り方、また障害者の暮らしやすい社会について興味をもち、知識を広げることのできる素晴らしい機会でした。けれどボランティアは私に学びや考える機会をくれただけでなく、感謝される嬉しさも教えてくれました。Special Olympicでの笑顔や「thank you」は私の中で深く残るものとなりました。Fayでのボランティア活動を通じて活動への関心が高まり、私自身のボランティアへの好奇心に気づくことができました。

ルームメイトはどのような方でしたか？(1人部屋だった場合は、同じ寮の友人について教えてください。)

私の部屋は三人部屋でルームメイトは同学年のメキシコ人とシンガポール人の女の子でした。学校が始まった直後は戸惑いもありましたが、Yearが進むにつれ彼女達の個性あふれる性格が大好きになっていきました。シンガポール人の女の子はすごく友達、家族思いの優しい子で友達が困っているとどんなに自分の時間を使うことになろうとも助けようとするような子でした。私も数学や歴史のレポートの宿題で助けてもらうことが数多くありました。まだ幼いところが残っているところが彼女のチャームポイントで、彼女のおてんばさや笑顔が私たちの部屋の雰囲気を毎日明るくしていました。メキシコ人の女の子も優しく、そしてすごくおらかな性格の持ち主でした。小さなことではくよくよせずいつも前向きに物事をとらえることのできる素敵な子でした。ユーモア、そして彼女にしか出せない明るさもあり、私は悩み事を抱えている時に彼女と話すことで毎回元気づけられていました。二人とは最終的にかけがえのない友達、兄妹のような関係になり一年を終えることができました。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。
授業の進め方で特に興味深いものがあれば、具体的に教えてください。

Fayでの授業は基本的に5人から12人程度の少人数制で行われました。先生が中心となって黒板上で授業が進む日本と比べて、Fayでは生徒が主体となり議論や意見交換を重ねて授業を進めていきます。成績の評価基準も日本とは大きく異なり、試験の結果よりも授業参加や宿題、小テストなど日々の積み重ね

が、より大きな割合を占めていました。また、プロジェクトはどの教科でもとても重要視されており、期末試験の代わりにプロジェクトやレポートを提出するということもありました。プロジェクトを行う頻度は高く、また学期末の時期はプロジェクトが重なることが多く、取り組むプロジェクトに優先順位をつけて時間をマネジメントする必要がありました。さらに **Fay** では一般的な成績表とは別に、生徒の授業内外での努力面にフォーカスを当てた、**Effort Grade** という成績表が二週間に一回出されます。生徒の宿題の取り組み具合や授業参加度、教室内での **citizenship** を各教科担任が評価するこの成績表は、生徒が先生からきちんと「見られている」と感じることができるものでした。また、二週間に一回という頻度も私は重要だと感じました。前は足りなかった点、逆に今週も続けていきたい前週はよくできた点などを **Effort Grade** を通じて認識することができるので、それらを日頃から意識することで、授業内での参加度やモチベーションの向上に繋がりました。

他に日本の学校と異なると感じた点は学業におけるインターネットの利用率です。**Fay** ではオンライン教材やスライドを中心に授業は進み、全ての宿題やプロジェクトを **Google Classroom** でチェックすることができました。提出もポスターなど一部例外を除いてほぼ全て **Google Classroom** 上で行います。また、そもそもの宿題の内容がパソコンを使わないとできないものがほとんどでした。**Google Classroom** の他にも、「**My Fay**」と呼ばれるサイトがあり、生徒の1日のスケジュールや試合の詳しい情報、先生からのコメントなどは全てこのサイトで管理されており、いつでも確認することが出来ます。成績表も紙で手渡されることは無く、この **My Fay** 上で送られてきます。さらに、大事な連絡やサインアップフォームなどはメールで送られてくるので、メールを確認する習慣も身につけることが出来ました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

塾内選考前にどのような準備をしていましたか。

塾内選考に向けエッセイを書く際、書き始める前に一度両親とじっくり話す機会を設けました。そうすることで行きたい理由、達成したいことをできる限り明確に、自分の中で整理しました。面談に向けては想定される問題をいくつか考え、それにスムーズに答えられるように練習して行きました。問いに対する答えを覚えようとするよりも、さらに自分を知ること为目标に練習して行きました。問いに対する答えを考えていく中で、考えた問いの答えに直接は繋がらないような自分の価値観の出所や本当に大切にしていることも頭の中で整理されて行きました。そして実際、面談本番で役立ったのは自分が考えた問題に対する答えよりも、その整理された自分の意思でした。塾内選考のアドバイスとしてはまずは目標や留学の理由をあやふやなままにしておかないこと。「英語を学びたいから」「友達を作りたいから」以上になぜ、英語を学びたいのか、どうして友達を作りたいのか。極限まで自分の考えを突き詰めることをおすすめします。そして一人で乗り切ろうとするのではなく、第三者の助けや視点を頼ってください。留学はすごく大きな挑戦です。一人で乗り切れることはなかなか難しいでしょう。話すだけでもアイデアが広がることもありますし、気持ちや考えが整理されていきます。

